



2012年度 紙パック回収率

2012年度の紙パック回収率は
44.2%でした。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2013年も6月～10月に実施され、2012年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2012年度の紙パック全体の回収率は44.2%（前年度比で1.3ポイント増）、使用済紙パック回収率は33.8%（同1.3ポイント増）となりました。

近年の使用済紙パック回収ルートの多様化に伴い、2012年度は、古紙原料問屋や再生紙メーカーによる直接回収を調査対象に加えました。これらの回収量はマテリアルフローの「集団回収等」に含めています。

※2012年度の調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー315社・1,735市町村区・小学校2,110校・スーパーマーケット等1,000社・市民団体および福祉作業所6カ所・再生紙メーカー33社等をアンケート調査対象に、また4カ所をヒアリング調査対象としました。なお、福島原発事故の影響により、一部地域について実施を控えています。
※紙パック製造工程や飲料工場の飲料充填前に発生した不良原紙、端材などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

2012年度の紙パック回収率

紙パック回収率
（産業損紙・古紙を含む）

44.2%

（2011年度 42.9%）

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=107.5千トン / 242.9千トン

使用済紙パック回収率
（使用された紙パック）

33.8%

（2011年度 32.5%）

=使用済紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=69.1千トン / 204.3千トン

自治体の紙パック取引価格は
高値を保っています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置付けられており、比較的高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかないものを対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収と集団回収の平均を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村や集団回収の取引価格は引き続き高値を保っています。

紙パック古紙の平均取引価格

年度			2009	2010	2011	2012
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.2	7.5	7.1	6.8
		持込価格	5.4	6.9	7.5	6.7
	古紙原料問屋	引渡価格	7.0	8.9	9.4	9.2
		持込価格	7.0	8.0	8.7	8.2
	製紙メーカー	引渡価格	8.8	12.3	10.8	9.4
		持込価格	8.0	10.2	10.3	10.9
集団回収	(取引先不問)	引渡価格	4.3	5.2	5.2	4.9
		持込価格	6.9	5.1	5.9	5.3

(円/kg)

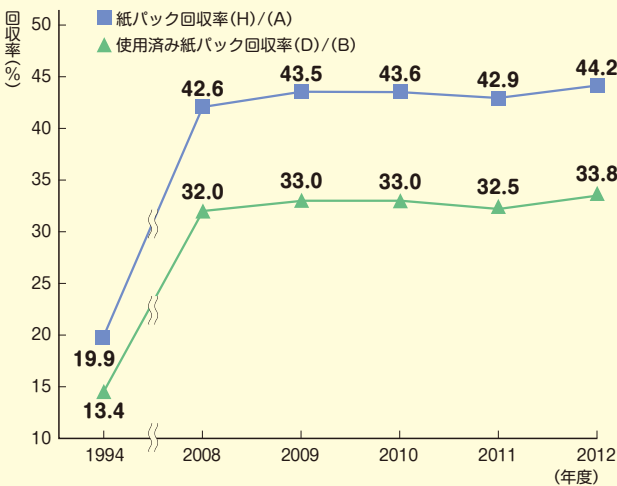
2012年度の紙パック回収量は
107.5千トンでした。

右の図のように、紙パック回収率は2011年度に調査開始以来で初めて減少しましたが、2012年度は再び増加に転じました。

2012年度の国内紙パック回収量は107.5千トンで前年度より1.7千トン(1.6%)増加しました。また、使用済紙パック回収量は69.1千トンで1.5千トン(2.1%)増加しました。

これまでの紙パック使用量や回収量などの推移は「主要データの推移」にまとめています。

紙パック回収率の推移



主要データの推移 (千トン)

区 分	1994年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	対前年増加率
飲料用紙パック使用量(A)	216.0	251.0	244.3	246.8	246.6	242.9	-1.5%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	37.1	35.9	37.3	35.1	36.2	3.2%
飲料メーカー産業損紙等発生量	-	3.0	2.6	2.1	3.3	2.4	-27.7%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	210.9	205.8	207.3	208.3	204.3	-1.9%
家庭系(C)	168.7	189.3	184.3	184.6	184.8	180.3	-2.4%
飲食店・自販機等(事業系)	18.5	9.8	9.7	10.8	11.7	12.1	3.8%
学乳(事業系)	10.7	11.8	11.8	11.8	11.8	11.9	0.6%
使用済紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	67.4	68.0	68.4	67.7	69.1	2.1%
家庭系回収量(E)	25.9	56.7	57.3	56.6	56.2	57.2	1.9%
店頭回収量	13.8	33.4	34.5	33.6	33.0	32.6	-1.1%
市町村回収量	4.3	14.4	13.9	14.1	13.9	13.7	-1.1%
集団回収等量	7.8	8.9	8.9	8.9	9.3	10.9	16.9%
事業系回収量(F)	0.6	10.7	10.7	11.8	11.5	11.9	3.4%
学乳紙パック回収量	0.6	9.3	9.3	9.4	9.2	9.6	4.2%
飲食店・自販機等	-	1.4	1.4	2.3	2.3	2.3	0.0%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	39.7	38.2	39.3	38.1	38.4	0.8%
紙パックメーカー回収量	16.5	37.1	35.9	37.3	35.1	36.2	3.2%
飲料メーカー回収量	-	2.6	2.3	1.9	3.0	2.2	-27.5%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	107.1	106.2	107.6	105.7	107.5	1.6%
紙パック古紙輸入量	-	13.9	10.9	12.7	14.0	11.4	-18.9%
紙パック総受入量	43.0	120.9	117.1	120.3	119.7	118.8	-0.8%
紙パック再資源化量	30.1	93.8	93.2	96.3	95.7	95.2	-0.6%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	42.6%	43.5%	43.6%	42.9%	44.2%	1.3ポイント
使用済紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	32.0%	33.0%	33.0%	32.5%	33.8%	1.3ポイント
家庭系使用済紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	30.0%	31.1%	30.6%	30.4%	31.7%	1.3ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケート調査により求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。

※2005年度に学乳紙パックの重量の見直しを行い、他の項目の値も一部影響を受けています。

※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2012年度 紙パックマテリアルフロー

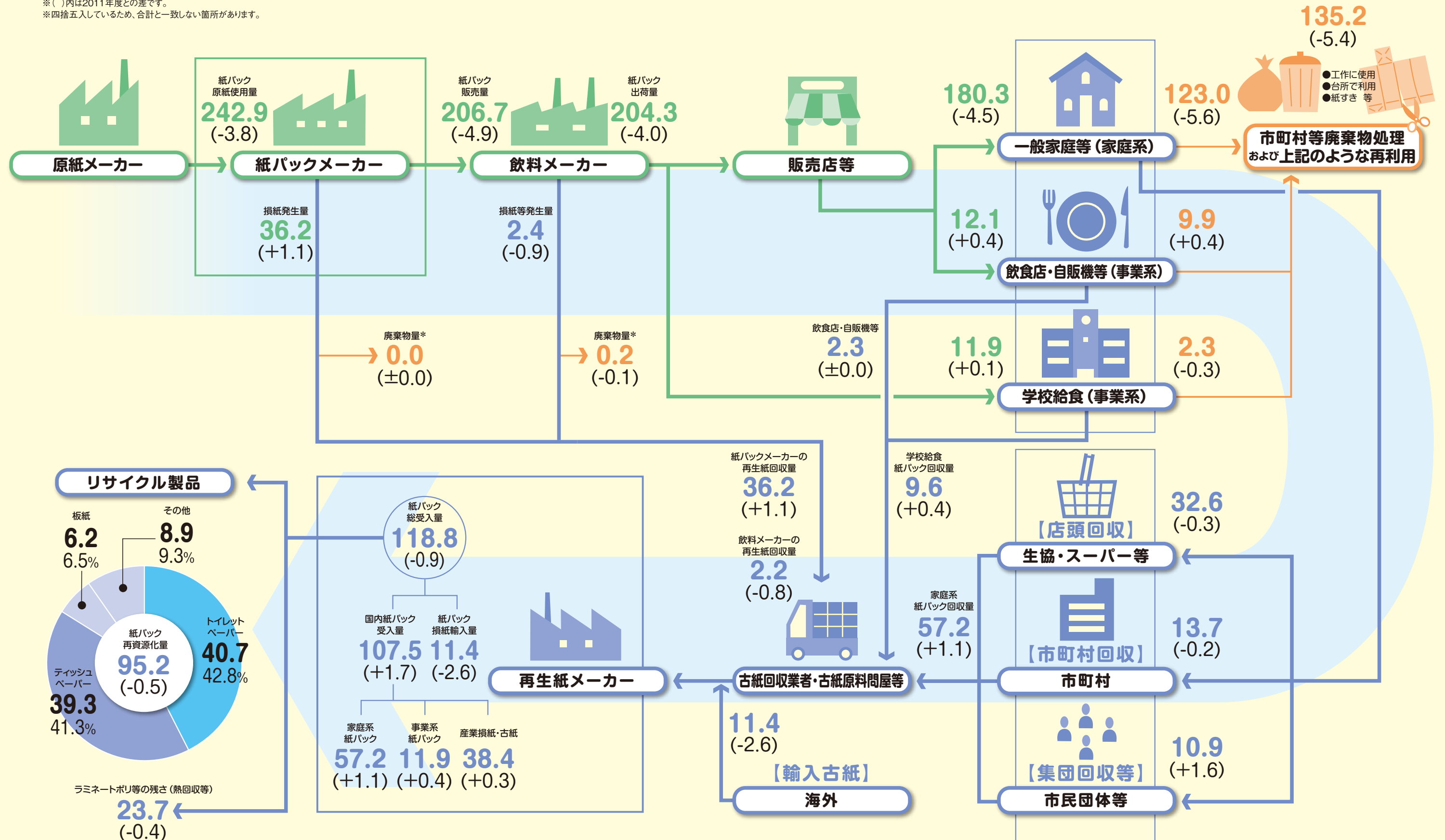


2012年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン

※()内は2011年度との差です。

※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。